

# 16年は1万8千店

5.4%減  
14年比

## 他の業態では増加の兆しも

食料品小売店の店舗数はこれまでほぼ一貫して減少を続け、2016年の経済センサスでも野菜・果実小売業は1万8397店と、前回(14年)調査比で1046店(5.4%)減少した。他の業態でも、食肉、鮮魚、コメ、酒、豆腐、菓子・パンなどは微減が続く。ただ、茶類(9.6%増)や牛乳(7.0%増)のほか、菓子・パンのうち菓子製造小売は14.9%、菓子小売は12.7%、パン製造小売も12.9%と大幅増加。若い女性などに受け入れられやすい業態には、ベンチャー企業や個人による新規参入が進んでいる。

### 主な食料品小売業の事業所数推移

分類	2016年	2014年	2012年	2009年	ピーク
野菜・果実小売業	18,397	19,443	20,986	25,749	66,195 (1976年)
野菜小売業	12,989	11,774	12,919		45,960 (1974年)
果実小売業	3,454	3,446	3,889		21,259 (1976年)
(分類不能)	1,954	4,223	4,178		
食肉小売業	11,058	11,604	12,535	14,383	43,874 (1979年)
鮮魚小売業	13,705	14,050	15,833	20,980	58,057 (1976年)
米穀類小売業	9,792	10,030	12,027		42,467 (1982年)
酒小売業	32,233	33,478	37,277	52,151	109,621 (1982年)
茶類小売業	6,996	6,381	6,867		15,069 (1982年)
豆腐等小売業	4,391	4,662	5,393		31,416 (1972年)
牛乳小売業	5,946	5,559	6,662	9,045	
菓子・パン小売業	61,922	62,113	62,078	71,125	189,444 (1972年)
菓子製造小売	24,860	21,633	21,950		33,195 (1991年)
菓子小売	15,746	13,975	14,898		136,712 (1972年)
パン製造小売	11,072	9,804	8,345		12,591 (1997年)
パン小売	1,743	1,683	1,715		26,332 (1979年)

総務省・経済産業省「経済センサス」より(2009年は基礎調査のため細かな分類はなし)

野菜・果実小売業のうち、野菜小売業は1988年以来28年ぶりに10.3%、果実小売業もピークの1974年以来、実に40年ぶりに微増した。ただし、主力業務がどちらか判別できない「分類不能」の野菜・果実小売店は一気に半減している。これは野菜または果実のどちらかの売上げが大きく減った結果で、それが野菜小売業または果実小売業に振り分けられただけでも考えられる。その一方で国全体の高齢化進展と健康志向の高まりで牛乳配達が見直され、牛乳小売店が増加に転じている。しかし、昔

ながらに牛乳だけを毎朝配達するのではない。乳製品などの取扱いや、毎朝ではなく日中あるいは週2〜3回の配達、さらに高齢者の見守り機能まで請負うケースも。

また、菓子製造小売やパン製造小売は、ピーク時よりも店舗数は少ないとはいえ、近年は健闘し

てきた業態。実態としては、菓子製造の多くはケーキ店、パン製造小売はベーカリーやサンドイッチ店とみられるが、いずれもその店独自のメニュー、オリジナル性を発揮することが前提の業態。

これに若い世代、とくに女性に受け入れられやすいという要素が相まって、新規参入が増えているものとみられる。